牧之原の風

霧島市立牧之原小学校　学校だより　令和6年7月3日発行

HPの方もどうぞ！

子どもによって自分の指導を振り返る

後輩Aは，教員の新規採用3年目で，1年生担任となりました。4月，靴箱の使用の仕方で1年生を集めます。上段と下段に分かれている一つの靴箱を示しながら，「いいかな，家から履いてきた運動靴は，下の方に入れます。学校で使うシューズは，上の方に入れるんだよ。（シューズを上段に入れるそぶりを見せながら）ここに入れるんだよ。できるかな，やってみよう。」と言った瞬間，3人ぐらいの子どもが，Aが説明で使っていた靴箱に入れようとして，シューズ同士がぶつかってしまったのです。もちろん，Aは，個人の名前シールがはってある靴箱に入れてほしかったのですが，（説明で使った靴箱の）「ここに」という言葉を3人の児童は，忠実に守ったことになります。

同A先生，帰りの会で，黒板に「もってかえるもの　ほん　のおと　ふでばこ」と大きく書きました。教室後方から一人の1年生が，国語の本を持ちながら，先生のところに駆け寄ります。「先生，本は，国語の本もですか。」A先生「そうだよ。」もどった1年生，今度は算数の本を手にして駆け寄ります。「先生，算数の本もですか。」A先生「そうだよ。」もどった1年生，今度は図工の本を手にして駆け寄ります。「先生，図工の・・・・」とまでしゃべった瞬間，A先生，腰を下ろし，1年生の目の前に顔を近づけ「あのね，本ていったら全部の本なの。ノートもいっしょ。」と説明したようです。（「この時少しイライラしていた」と本人の反省の弁）

「どちらも，補足の言葉が足りなかった」とA先生。「こちらは，分かっているだろう，そうしてくれるだろうと思っていても，そうならない場合が多い。」と語ってます。言葉を丁寧に選びながら，彼は，教師としての資質をあげる1年間を経験することになるのです（後に「修行の1年」と言ってましたが・・・）。

子どもたちと接することで，自分の指導の声かけのまずさを振り返ることは多いです。上記は，日常生活ですが，授業中でもよくあります。一方，大人が考えていないこどもの発想力に驚かされ，大人の凝り固まった考えではない純粋な思考に，思わず笑みが出ることも・・・。教師という仕事をしていて，楽しみの一つと言っても良いでしょう。

約2週間で，夏休みが始まります。御家庭では，いつもより子どもたちと過ごす時間が増えることでしょう。もしかしたら。今まで気付かなかった我が子の考え方に驚く機会もあるかも・・・。じっくり会話を楽しみ，成長を噛み締めるそんな夏休みであることを願っています。　　（校長　馬場修身）

和牛少年隊活動開始（5年生）

牧之原小学校5年生の「総合的な学習の時間」に行われる和牛少年隊の活動が，今年度も始まりました。6月27日は，結団式を行った後，和牛を飼っている畜産農家2ヶ所を訪問し，体験活動を行いました。地域の特産を学習することで，より地域を知り，誇りに思うことでしょう。今年の5年生は，どんな学習の成果を発表してくれるか，今から楽しみです。

認知症サポーター研修（6年生）

6年生の総合的な学習の時間「認知症サポーター研修」，今回2日間にわたり実施されました。1日目は，認知症についてのお話を聞いた後，手押しから自動までのさまざまな車いすや電動ベットの体験。2日目は，施設に通所されている高齢者の方々とのふれあい活動（雑巾縫い・給食）です。高齢者の方々との触れ合いの様子を見ていると，それまでの学習の成果か，ゆっくりと相手の目を見て話しすなど，十分にコミュニケーションが取れている子どももいました。このような素晴らしい機会を設定して下さった「リハケアガーデン国分」のスタッフの皆様，多くの車いす等を準備して下さり，そして指導もして下さった「株式会社カクイックスウィング」のスタッフの皆様，わかりやすく認知症に関する講演をして下さった加治屋様，本当にありがとうございました。

集団宿泊学習（5年生）

友だちと作ったカレー，最高です。

思い出の「まが玉」作り。

海の体験に出発！
心を一つにして進め！

多くの体験ができた宿泊学習。1週間前は天気も心配されましたが，子どもたちの想いの強さなのか晴天を引き寄せ，無事にすべての日程を終えることができました。これらの経験を今後の生活で活かしてくれることでしょう。

水の事故から子どもたちを守りましょう。

- ○　遊泳禁止区域や危険区域では，絶対に「泳がない」「遊ばない」。
- ○　子どもたちが遊泳可能な海水浴場やプールに行く時は，必ず保護者等の大人と行き，一人で遊ばないようにする。
- ○　特に低学年の子どもたちは，保護者が目を離したすきに溺れるケースが多いことから，保護者は適切な位置で，入水から着替えが終わるまで，常に監視を怠らない。
- ○　大雨で増水した河川や台風接近等で波が高い海岸は，極めて危険であるので，絶対に近づかない。